

## 第1節 教員の資質向上に寄与する「大学と学校・教育委員会の協働の実現」事業

### 第1項 オンデマンド研修事業

#### 1 はじめに

岡山大学教育学部と教師教育開発センターは、平成23年度より5年間にわたって「教員の資質向上に寄与する『大学と学校・教育委員会の協働』の実現—学校教育改善との連動で教員養成教育を進化させる—」というプロジェクト（略称「先進的教員養成プロジェクト」）に取り組む。この事業の1つとして、大学と学校・教育委員会が協働し、学生が学校において継続的にインターンシップ的な実習に取り組むことで教育実践力を高める教員養成教育の改善と、学校・教育委員会の求める研究・研修に教育学部教員が貢献することで学校教育の充実・発展に貢献するオンデマンド研修とを結びつけて実施する事業に取り組む。

なお、学部の担当教員は、住野好久、東條光彦、川田 力、熊谷慎之輔、金川舞貴子、上村弘子、センターの担当教員は、高旗浩志、樫田健志、三島知剛、後藤大輔、計10名である。

#### 2 平成25年度の取り組み実績

##### （1）「教職実践インターンシップ」の本格実施への協力

本年度より、これまでこの事業部門が取り組んできた試行をふまえて、「教職実践インターンシップ」が本格実施されることとなった。「教職実践インターンシップ」は、実地教育委員会内の実施専門委員会が担当するが、同委員会に対して昨年度までの試行の結果を「提言」としてまとめたものを伝えるとともに、実施に協力してきた。

また、「教職実践インターンシップ」の成果と課題を明らかにするために、学校および学生に対するアンケート調査を実施することとなり（担当：三島）、平成25年10月に学校向けアンケート、平成26年1月に学生向けアンケートを実施した。アンケート結果については、3月7日の「先進的教員養成プロジェクト・中間報告会」にて、その概要を報告する予定である。

##### （2）「教職実践インターンシップ」の本格実施に伴うオンデマンド研修の拡張

「教職実践インターンシップ」の本格実施に伴い、オンデマンド研修実施校を、従来の岡山市操山中学校区学校園、倉敷市多津美中学校区・倉敷第一中学校区・庄中学校区に限定するのではなく、オンデマンド研修を実施するすべての学校園で実施することとなった。この件については、教職実践インターンシップを担当する学部教員を通じて各実習校に周知するとともに、10月23日に開催された「平成25年度 岡山大学大学院教育学研究科、岡山大学教育学部、岡山大学教師教育開発センターと岡山県・岡山市教育委員会との合同連携協力会議」においても口頭にて周知した。

また、オンデマンド研修の担当は、本事業部門だけではなく、教職実践インターンシップを担当する各講座も担うこととなった。教職実践インターンシップの実習校からオンデマンド研修の依頼があった場合には、本事業部門を窓口（担当：後藤）として依頼情報を集約し、本事業部門

が研修の講師・助言者候補を選び、研究科長名で依頼し、実施してもらうという手続きを踏む。この件については、教授会において研究科長より全教員に向けて周知された。

### （３）岡山市教育委員会・教職実践インターンシップ実施学校園との協働

#### ① オンデマンド研修の実施

これまでもオンデマンド研修を実施してきた操山中学校区学校園に対するオンデマンド研修は以下のように実施された。

○三勲小学校：8月6日13：00～15：00 ESDに関する教員研修

（ESD協働推進室・柴川弘子）

○宇野小学校：1月20日15：30～17：00 授業力向上のための教員研修

（教職実践講座・住野好久）

#### ② 岡山市教育委員会との協働—ユネスコスクール推進事業—

岡山市教育委員会の委託を受けて、岡山市内小・中学校のユネスコスクール申請とユネスコスクールのESD推進を支援している。研修への講師派遣と学生ボランティアの派遣が主な支援である。

○福田中学区：7月27日7：20～10：00 「地域再発見スタンプラリー」学生ボランティアの派遣（学部学生2名）

○光南台中学校区：8月1日10：00～12：00 「ESD研修会」ESD協働推進室・柴川弘子

○津島小学校：8月1日9：00～11：00 教員研修 教職実践講座・住野好久

○政田小学校：8月5日午後 教員研修 理科教育講座・藤井浩樹

○御南中学校：8月6日9：00～11：30 教員研修 ESD協働推進室・柴川弘子

○三勲小学校：8月6日13：00～15：00 教員研修 ESD協働推進室・柴川弘子

○甲浦小学校：8月22日9：00～11：30 教員研修 ESD協働推進室・柴川弘子

○伊島小学校：8月27日 教員研修 理科教育講座・藤井浩樹

○第三藤田小学校：10月4日午後 「ESDフィールドワーク」学生ボランティアの派遣（学部学生6名）

### （４）倉敷市教育委員会・教職実践インターンシップ実施学校園との協働

#### ① オンデマンド研修の実績

これまでもオンデマンド研修を実施してきた多津美中学校区・倉敷第一中学校区・庄中学校区に対するオンデマンド研修の中で取り組んできた「ハイパーQ-Uテスト」に関する研修を継続して実施した。

○倉敷第一中学校：6月28日

○庄中学校：8月7日

○多津美中学校：8月6日（いずれも担当は、教師教育開発センター・樫田健志）

さらに、ハイパーQ-Uテストに関する研修を倉敷市教育委員会と共催し、倉敷市の他の学校にも呼びかけて開催した。

○『Q-Uを活用した一次、二次、三次対応』11月26日：河村茂雄先生（早稲田大学）

参加者は主催者側も含め150名余りであった。Q-Uを実施していない学校も含めて参加があり、学級集団や子どもたちの人間関係の問題をどのように見取り、対応していくかについて学ぶことができた。

## ② 倉敷市教育委員会との協働—講師のためのスキルアップセミナー—

倉敷市と協議・協働して、倉敷市立の小・中・高・特別支援学校に勤務する講師（非常勤講師を含む）と岡山大学教育学研究科大学院生を対象に、「演習形式により、授業づくりの基礎・基本等の育成を図る」ことを目的とした「講師のためのスキルアップセミナー」を、ライフパーク倉敷・倉敷教育センターにて開催した。

- ・第1日目 平成25年 5月18日（土）14:00～17:00「授業づくりの基礎・基本」
- ・第2日目 平成25年 6月15日（土）14:00～17:00「魅力的な授業づくり」
- ・第3日目 平成25年10月19日（土）14:00～17:00「実践授業から学ぶ」

第1日目は17名の参加であったが、3回とも出席した9名に対し、研究科長公印の入った修了証をお渡しした。

## （5）赤磐市教育委員会との協働—「教職実践インターンシップ」の実施—

昨年度、「教職実践インターンシップ（試行）」に参加した11名（高陽中5名、山陽小4名、山陽西小2名）が、引き続き平成25年度の「教職実践インターンシップ」を実施した。平成24年11月から平成25年9月までの11か月にわたりインターンシップ活動を行うことができた。継続的な児童生徒とのかかわりの中で信頼関係を築くとともに、学校現場の実態に基づき自己課題を明確にして、インターンシップ活動に取り組むことができた。また、赤磐市教育委員会からは、インターンシップ生に対して、指導主事による活動参観および面談による指導を行うなどの支援をいただいた。

「教職実践インターンシップ（必修）」に加えて、配当校における事前活動を行うことで、インターンシップ活動への円滑な接続ができる。平成26年度の教職実践インターンシップへの事前学習として、順次対象学生20名（高陽中8名、山陽小7名、山陽西小5名）の事前活動を進めていく。

## 3 成果と課題

### （1）オンデマンド研修及び教職実践インターンシップについて

今年度は、5校での計5回のオンデマンド研修が実施された。倉敷市ではハイパーQ-Uテストに関する研修を全市的に呼びかけて実施することができた。

今年度より「教職実践インターンシップ」を実施するすべての学校園を対象にオンデマンド研修を行うこととしたが、各学校への周知の遅れ、実施体制の未確立といった問題があり、十分な取り組みにすることはできなかった。

「教職実践インターンシップ」は、学生が継続的に公立学校園を訪問し、主免実習では得られない実習体験をするとともに、「教職実践演習」の中でその実習体験を省察することによって本学部がめざす4つの教育実践力を高めるものである。と同時に、実習校にとっては、実習生を活用することで、さらには実習担当の学部教員とつながって指導・助言をもらうことで、学校の抱える様々な課題に取り組むものでもある。と同時に、学部教員にとっては、こうした学校支援の経験を通じて学校現場の状況を理解し、学校教育の改善に貢献するための力量を高めていくものである。「教職実践インターンシップ」は、学生も大学教員も学校も成長・発展する取り組みになることが期待されている。このような取り組みの実現とその拡充のための組織と戦略を持つことが求められている。

## **(2) 教育委員会との連携について**

今年度は、岡山市教育委員会と連携したユネスコスクール推進事業、倉敷市教育委員会と連携した「講師のためのスキルアップセミナー」に取り組んだ。これらの取り組みは、教育委員会と、その対象となった学校・教員の満足感を得られるものとなった。

今年度、個々の学校園でのオンデマンド研修が十分行われなかった原因には、学校現場にある多忙感や、指定された研究には取り組んでも自主的な研修に取り組むゆとりがないことなどもあげられる。今後、オンデマンド研修を拡充していくためには、各学校からの要望を黙って待っているのではなく、各学校園に対して自主的な研修の実施を呼びかけ、そこへの学部教員の支援と参画を広げることが求められる。さらに重要なことは、個々の学校園の抱える課題を教育委員会が把握し（先取りし）、教育委員会が個々の学校園の代弁者としてオンデマンド研修の実施を岡山大学に求めるという取り組みである。例えば、教育委員会が各学校園に「本校の実践を改善するには、岡大の〇〇先生の力を借りて、教員研修してはどうでしょうか。」と働きかける。こうして、教育委員会が大学と学校園との媒介になるのである。

## **(3) 中間報告会を受けて**

「教員の資質向上に寄与する『大学と学校・教育委員会の協働』の実現－学校教育改善との連動で教員養成教育を進化させる－」というプロジェクトは、今年度末（3月7日）に中間報告会を開催し、これまでの取り組みを中間的に総括し、外部からの評価を得ることとなっている。この中間総括をふまえて、来年度以降の本プロジェクトの見通しを改めて策定し、全学部的に共有し、取り組んでいくことが求められている。

文責：岡山大学大学院教育学研究科 住野 好久